

# HACCP 普及のための e-learning 教育システム

○古谷陽子<sup>1)</sup>、川原俊介<sup>1)</sup>、佐藤懇一<sup>1)</sup>、赤池洋<sup>1)</sup>、木村滋<sup>1)</sup>、井上敏雄<sup>1)</sup>、茶菌明<sup>1)</sup>、森田幸雄<sup>2)</sup>、山本茂貴<sup>3)</sup>、  
NPO 法人日本食品安全検証機構<sup>1)</sup> 家政大学<sup>2)</sup>、東海大学<sup>3)</sup>

## 1. はじめに、

食品衛生を取り巻く環境変化、特にグローバル・スタンダード化は避けて通れない待ったなしの緊急事態の様相を呈している。そこで、厚生労働省は、2014 年に食品衛生法を改正し、「中小企業」、「飲食店」、「と畜場」、「食鳥処理場」等を含めて“HACCP 導入型基準”の適応拡大を示した。そして、近い将来義務化の方向で動き出している。

## 2. 趣旨

HACCP の導入に当たっては、基本的知識をいかに普及するかが重要である。このための手法として、e-learning 教育システムは、有効と考えられる。そこで、第 1 ステップ「共通講座」、第 2 ステップ「業種別講座」第 3 ステップ「検証（審査）講座」の 3 つのステップ（講座）から構成される教育システムを構築することとした。

## 3. 目的

平成 27 年度は、第 1 ステップの、食品衛生指導者が最初に習得しておかなければならない HACCP の基本事項について学ぶ「共通講座」を以下の通り開発した。①HACCP の基本知識および PDCA サイクルを動かす方法が学習できること、②実質的な学習成果が上がること、③ドロップアウトを最小化し完遂率を上げること。

## 4. 骨子

1) e-ラーニングのツールは、ログデータの収集管理・分析機能の充実した、標準化し易いキャラクタ動画・ソフトを採用した。

2) コンテンツとして、Codex 委員会が示す HACCP の基礎知識に加えて、HACCP に基づく衛生管理システムの構築から、その運用、並びに見直しと改善のサイクル（PDCA）を実現するための方法を含め、HACCP の知識習得を経て、継続した取り組みの足がかりとなる要素を加えた。また、工程管理だけではなく製品の安全性に重大な影響を及ぼす原材料の管理等についての管理法を含めた。

3) 学習成果を確実に高めるため各章ごとに自動採点のできる選択方式のテストを行い、90 点以上をクリアするまで先の章に進むことができないように設定し、各章ごとの学習内容が確実に習得できるようにした。

## 5. まとめ

①HACCP 学習のための基礎として「共通講座」を開発した。

②完遂率向上のために受講者の状況や要望を細かく取り入れながら、継続的に改良を加えて行く必要がある。

③ステップ 2 「業種別講座」、ステップ 3 「検証（審査）講座」の開発を予定しているが、これらの開発と並行して HACCP 実務者、指導者、検証者、業種などその立場にあったコンテンツ、講座構成、単位制などについて検討する必要がある。

④より高い学習効果を得るため、集合型研修と組み合わせた複合型の教育システムを検討する必要がある。